

# ユネスコ新春フェスタ2017

広島ユネスコ協会活動の一年の始まりとなる「ユネスコ新春フェスタ」は、1月28日、第19回目を迎えて、広島市文化交流会館で開かれました。この催しは、地域貢献や国際理解、国際協力・交流などの活動を奨励する広島ユネスコ活動奨励賞の表彰式と新春コンサートを組み合わせた新春の恒例行事です。



広島ユネスコ活動奨励賞を受賞された3校5団体代表の皆さん

## 第一部 表彰式

表彰式では、亀井章会長が開会挨拶、選考委員長の由井義通・広島大学大学院教授（教育学研究科）が活動の意義を讃えながら講評（要旨別掲）。続いて表彰状とブロンズ盾が、亀井会長から学校部門3校と社会部門5団体へ贈られました（受賞校・団体の名前と活動は別掲）。



亀井会長



由井選考委員長





## 第二部 新春コンサート

表彰式に続く第二部は「新春コンサート」。出演は韓国大邱市出身で現在、広島市内で活躍中の声楽家・ソプラノの車景實（チャ・キョンシル）さんと、朴完卿（パク・ワンキョン）さんの2人。大邱・広島両ユネスコ協会の16年にわたる姉妹提携・交流の縁で出演が実現しました。

ステージは、華麗なチマチョゴリ姿の車さんによる「千の風になって」で始まり、次に朴さんによる「花は咲く」、「平城山」などの日本の歌曲と、韓国の歌曲「アリラン」が演奏されました。そして車さんがソプラノの本領を發揮したのは、オペラ「蝶々夫人」の aria 「ある晴れた日に」の熱唱でした。イタリア民謡の「オオ ソレミオ」や「フニクラ フニクラ」を楽しく歌って、最後はオペラ「椿姫」から「乾杯の歌」で盛り上がりフィナーレとなりました。会場に響き渡る歌声に参加者一同、すっかり魅了された1時間でした。



### 第三部 祝賀パーティー

第三部の祝賀パーティーは、古田碩永副会長の挨拶、藤井正一副会長の乾杯の発声で会食となり、松岡盛人副会長の巧みな司会で終始、和やかな雰囲気です。閉会時には、世木田寛子教育部会長の熱のこもった爽やかな挨拶があり、会の幕を閉じました。



皆様のおかげをもちまして、ユネスコ会員と受賞団体の皆さんとの交歓、交流が深まり、実り多い思い出に残る新春フェスタとなりました。

(文化部会長 井尾義信)

# 第19回広島ユネスコ活動奨励賞表彰

## ～受賞された学校・団体名と活動内容～

### 学校部門

○広島市立中島小学校 校長 前重幸美

「ヒロシマの原爆体験を感性の原点とした平和教育の推進」

世界平和を作り上げる一員となる自覚の育成、国際交流のできる人間作りを目指した教育をし、広島市内の小中学校にも発信し続けている。

○広島市立庚午中学校 校長 原之園和弘

「平和を願う気持ちを伝えるアニメ制作」

被爆者の体験談を題材としたアニメ制作活動を行う美術部、その他の分野においても戦争の悲惨さと平和を維持することの重要性をつかむ教育を行っている。

○広島市立広島商業高等学校 校長 土井圭太

「広島市商ピースデパートによる平和貢献」

授業の一環としての「ピースデパート」を実施し、その収益金で長崎と連携をとり、平和交流、平和企画展示、平和モニュメントの制作などを行っている。

### 社会部門

○宇品みなと太鼓 代表 水坂邦昭

「和太鼓演奏による伝統文化の継承と青少年の健全育成」

小中高、社会人と幅広い年齢層の活動。小中のPTA行事、神社、留学生会館などで演奏を披露し、異文化交流、伝統文化の継承に寄与。

○赤道ギニアを支援する会 代表 山藤寿美子

「赤道ギニア共和国の子どもたちと母親の支援」

会員が持ち寄った衣類、手芸品などでフリーマーケットをし、その収益金をギニアで通学できる子どもを増やす活動をしている。

○ネパール&日本 自然と平和の会 代表 カルキ・パラメソール

「平和と自然の大切さを広げる」

ネパールと日本の国際交流をしている。ネパールからは自然、文化の紹介がなされ、日本からは、原爆や核の問題の教育、地震復興支援活動をしている。

○ヒロシマを語り継ぐ教師の会 代表 杉山武郎

「被爆・戦争の体験や実相を次世代に語り継いでおこう」

より正確で公正な平和教育の必要性を感じた教師たちの活動。体験や聞き取り調査を基に証言活動、書籍の発刊を世界に向け行っている。

○広島市よい本をすすめる母の会 代表 柴田幸子

「親子で本を楽しみ、本の楽しさを子どもたちに！」

「本は人が作った最大の文化」をモットーに、公民館、図書館で読み聞かせ、紙芝居、言葉遊びなどの活動を 50 年続けて行っている。

(報告・教育部会長 世木田寛子)

## 第 19 回広島ユネスコ活動奨励賞講評（抜粋）

選考委員会委員長 広島大学大学院教育学研究科教授 由井義通

このたび受賞された皆様、おめでとうございます。私は昨年、広島大学のユネスコスクール委員会の代表になり、広島大学にユネスコクラブを設立いたしました。そして、部員の学生たちと沖縄研修旅行へ行き、戦跡を巡り、アメラジスクール等を訪れました。この2月には女優の東ちづるさんが関わっていることでも知られるドイツ平和村へ研修旅行を実施する予定です。

それでは、ユネスコ活動奨励賞の講評をさせていただきます。

学校部門で、広島市立中島小学校は、学年ごとや全校児童を対象とした、被爆体験談を聞く会や、平和集会、子どもの碑慰霊祭、平和のつどいなどの様々な活動を「平和プログラム」として実践され、平和教育を継続して推進されていることが評価されました。

広島市立庚午中学校の活動は、毎年広島で開催される広島アニメーションフェスティバルに合わせて行われる「ヒロシマの心を世界に」の中の、「平和や広島をテーマにしたアニメーション作品の上映」で、継続的に作品を発表する活動を行っていることが評価されました。一作品で400～500枚という労作であり、作品に込められた平和への思いを広く発信する活動であると思います。

広島市立広島商業高等学校の「広島市商ピースデパート」活動は、ビジネスの体験活動ばかりでなく、ビジネスを通じた平和貢献を目的としており、同じ被爆地の長崎商業高等学校との交流や、広島市・長崎市の平和団体への収益の寄付などは非常に高く評価できます。

次に、社会部門の赤道ギニアを支援する会は、ギニアへの子ども服や文房具などの定期的な支援活動、公民館での写真展の開催、スタディツアーといった活動が評価されました。また、ネパールと日本・自然と平和の会は、ネパールへの教育支援と、被爆地広島をネパールの人々に知ってもらう活動、ネパールを紹介する国際理解・交流活動に加え、2015年の大地震災害からの復興支援にも活動を広げているなどの活発な活動が評価されました。

宇品みなと太鼓は、和太鼓を通じた外国との文化交流や地域と学校行事とが連携した活動などが評価されました。和太鼓は海外の日系人社会でも人気があり、今後は、若者の継続的な参加に期待したいと思います。

ヒロシマを語り継ぐ教師の会は、教員経験者の方々によって被爆体験や戦争体験の継承をめざす活動をされています。体験者の証言を聞き、勉強会や学校訪問での証言活動を継続されていることが評価されました。年間40～50回の学校訪問という活発な活動は、ぜひ次の世代に引き継いでほしいものです。

そして、広島市よい本をすすめる母の会の活動は、親子で本を楽しみ、読書の楽しみを子どもたちに知ってもらうため、子ども図書館の利用と母親の皆さん方の研修会等を行ってこられました。これは、ユネスコの理念の「Education for All」（人類みんなに教育を）に通じる活動であることとして評価されました。読書を通じた国際理解や多文化理解、文化の継承を期待しています。

（文のまとめ・事務局 内田一士）